

(別紙3)

こ施起第1419号 - 1

令和7年12月19日

(施設名) 米子市児童文化センター
(指定管理者) 一般財団法人米子市文化財団
(代表者名) 理事長 杉原 弘一郎 様

米子市長 伊木 隆司 印

令和6年度「米子市児童文化センター」指定管理者業務評価書

施設名	米子市児童文化センター
施設所管課	こども総本部 こども施設課
指定管理者名	一般財団法人米子市文化財団
指定期間	平成28年4月1日 ~ 令和8年3月31日(9年目)

【モニタリング終了後の総評】・事業計画書、収支予算書と実際の業務内容を比較して記入する。
・毎月の「運営状況チェック表(自己評価)」、半年ごとの「モニタリング評価表」で確認した内容等を記入する。

【施設所管課】利用者数の増加やアンケート結果において高い評価が得られていることなどから、利用者ニーズを踏まえた適切な管理運営が継続的になされていたことが伺える。

【第三者評価】時代やニーズに合った新規事業の実施やweb申込の導入など、利用者に寄り添った取り組みがなされていることが伺える。

【今後の業務改善方策等の特記事項】

【施設所管課】利用者ニーズに応える新規事業や幅広い世代を対象とした事業を実施している現状を踏まえ、これらの取り組みをより多くの方に周知するため、広報活動のさらなる充実に力を入れていただきたい。

【第三者評価】課題だったアンケートの回収率は様式変更により向上している。引き続き利用者の意見を回収する工夫を継続していただきたい。また、様々な事業を実施するため、研修に積極的に参加するなど職員のスキルアップに励んでいただきたい。

令和6年度下期「米子市児童文化センター」モニタリング評価表〔令和7年7月〕

施設名	米子市児童文化センター	
施設所管課	こども総本部 こども施設課	
指定管理者名	団体名	一般財団法人 米子市文化財団
	所在地	米子市末広町293番地
指定期間	平成28年4月1日 ~ 令和8年3月31日	
選定方法	公募・ 非公募	
施設の設置目的	児童の健全育成	
主な実施事業	(1) プラネタリムの投影及び天体観測設備の利用 (2) 児童文化活動の推進 (3) 青少年関係団体の指導者の育成 (4) 上記の外、児童の健全な育成を図るための必要な事業	

評価項目	評価基準	評価	特記事項
I 履行の確認 (60点)			
1 施設全般の管理運営に関する業務			
(1) 管理体制	施設の管理体制が明確になっており、基準に基づいた適切な人員配置がなされているか 安全対策、危機管理体制などが十分に講じられているか	B	資料確認・聞き取り。 適切に行われている。
(2) 職員研修	職員の業務に必要な資質・能力の向上を図るための研修・教育が適切に行われたか	B	資料確認。 様々な分野の研修に意欲的に参加している。
(3) 利用促進業務	利用者拡大のための利用促進業務が適切に行われたか	B	資料確認。 地元メディアへの出演や、取材、SNS等により利用者拡大に取り組んでいる。
2 利用者に関する業務			
(1) 利用状況	利用者数・稼働率等は適切な水準であるか ※1	B	資料確認。 前年度から約6%増加している。
(2) 利用者の要望把握等	利用者の要望の把握及びその実現策は適切に行われているか	A	聞き取り。 利用者の意見や要望に対し、WEB申込を開始する

			等、可能なものは迅速な改善に努めている。
3 保守点検及び清掃等の業務			
(1) 保守点検業務	基準に基づき、保守点検が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	資料確認。 適切に行われている。
(2) 清掃・維持業務	基準に基づき、清掃業務・維持管理が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	資料確認。 ボランティアとの継続的な連携により適切な清掃・維持管理が行われている。

(3) 保安・警備業務	基準に基づき、保安・警備業務が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	資料確認 適切に行われている。
(4) 修繕業務	基準に基づき、修繕業務が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	資料確認。適切に行われている。
4 自主事業の実施に関する業務	事業計画書に沿った自主事業が適切に行われたか ※条例上自主事業の実施が可能な施設に限る。	A	資料確認。 事業計画に基づき積極的に事業に取り組んでいる。 特別展示により新たな利用層の関心獲得につなげた。
5 情報公開・個人情報に係る措置	情報公開・個人情報保護に係る措置は適切に行われたか	B	資料確認。 法令に基づき適切に行われている。
6 管理目標	施設の現状を正しく認識し、今後の在り方についての提案は具体化されているか	B	資料確認。 適正に行われている。

II サービスの質の評価 (25点)

1 利用者満足度	利用者へのサービスの質を維持・向上させるための提案は具体化されているか 利用者アンケート等を実施し、その結果は妥当であるか	B	資料確認・聞き取り。 各事業報告に反省点や課題が記載されており、改善案が提案されている。
2 維持管理業務	日常清掃業務や衛生管理、備品などの設備の維持管理は適正に行われ、良好な状態で施設の利用が行われているか	B	資料確認。 適切に行われている。
3 運営業務	事業運営について、サービス水準の向上のための創意工夫	B	聞き取り。

	が見られるか 利用許可などの利用者への接客・対応は適切であるか		適切に行われている。
4 自主事業	実施された事業内容は、施設の設置目的に沿い、サービス水準の向上に寄与する質の高いものであるか ※条例上自主事業の実施が可能な施設に限る。	B	資料確認。 施設の設置目的に即した管理運営内容だった。
5 施設の効用	施設の効用を最大限に発揮し、設置目的の達成に資することができる管理運営内容であったか	B	資料確認。 施設の設置目的に即した管理運営内容だった。

Ⅲ サービスの安定性の評価 (15点)

1 事業収支	指定管理業務の事業収支は妥当であるか ※2	B	資料確認。 妥当である。
2 経営状況	指定管理業務の経営状況分析指標の結果は妥当であるか ※3	B	資料確認。 人件費及び委託費の増により赤字額が増大。
3 団体等の経営状況	団体の経営状況分析指標の結果は妥当であるか ※4	B	資料確認。 妥当である。

<p>【総評（所管課評価）】</p> <p>少子化が進む中で来館者が増加していることは、一定の評価ができる。また、広報活動にも力を入れ、WEB 申込といった現代の利用者目線に立ったサービスの改善もみられた。</p> <p>児童の健全な育成を図る事業を継続するにあたり、職員のスキルアップとともに、地域の皆様により良い環境を提供する取り組みを続けていただきたい。</p>	<p>合計点 (64) 点 / (100) 点 × 100 = (64)</p> <p>平均点 (3.2) 点</p>
--	---

※施設の性格や設置目的により、評価項目は追加、変更できる。

※評価区分 A（優良）＝協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた管理内容である。（5点）

B（良好）＝協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿った管理内容である。（3点）

C（課題含）＝協定書等の基準を遵守しているが、管理内容の一部に課題がある。（1点）

D（要改善）＝協定書等の基準を遵守しておらず、改善の必要な管理内容である。（0点）

※特記事項欄は、評価を行った確認方法（例：立入調査、台帳確認、資料等確認）と当該評価を行った理由を記載する。

※総評欄は、事業計画書等との整合性を検証し、評価、業務の改善方策等を記入する。

※合計点は小数点第1位を四捨五入、平均点は小数点第2位を四捨五入とする。

【補足資料】

1 利用状況

項目	本年度〔令和6年4月～令和7年3月〕 A	前年度〔令和5年4月～令和6年3月〕 B	対比 A－B	対比 A/B (%)	対比が±20%を超える場合は増減理由を記載
開館日数	303	304	△ 1	99.7	
施設利用者数	160,814	151,119	9,695	106.4	
施設稼働率	83.0	83.3	△ 0.3	99.7	
事業開催数	892	863	29	103.4	

2 事業収支

(1) 収入

項目	本年度〔令和6年4月～令和7年3月〕 A	前年度〔令和5年4月～令和6年3月〕 B	対比 A－B (円)	対比 A/B (%)	対比が±20%を超える場合は増減理由を記載
利用料収入	102,640	148,519	△ 45,879	69.1	有料貸館件数の減少による
指定管理料	72,575,000	68,053,000	4,522,000	106.6	
自主事業収入	2,004,170	1,967,920	36,250	101.8	
雑収入	256,635	209,169	47,466	122.7	主に、おもちゃの販売の実績増による
合計	74,938,445	70,378,608	4,559,837	106.5	

(2) 支出

項目	本年度〔令和6年4月～令和7年3月〕 A	前年度〔令和5年4月～令和6年3月〕 B	対比 A－B (円)	対比 A/B (%)	対比が±20%を超える場合は増減理由を記載
人件費	46,421,992	42,289,361	4,132,631	109.8	
消耗品費	1,063,051	980,390	82,661	108.4	
光熱水費	9,449,366	8,502,255	947,111	111.1	
外部委託費	8,021,770	6,170,296	1,851,474	130.0	主に、物価上昇に伴う委託料の実績増による
事業費	3,838,839	3,188,206	650,633	120.4	主に、プラネタリウム特別投影の実施などによる
その他	12,498,837	11,715,280	783,557	106.7	
合計	81,293,855	72,845,788	8,448,067	111.6	

3 経営状況分析指標

項目	本年度〔令和6年4月～令和7年3月〕 A	前年度〔令和5年4月～令和6年3月〕 B	対比 A－B	対比 A/B (%)	備考
①事業収支	△ 6,355,410	△ 2,467,180	△ 3,888,230	257.6	人件費や委託費の高騰による。
②利用料金比率	0.14	0.21	△ 0.07	66.7	有料貸館利用減のため。
③人件費比率	57.1	58.1	△ 0.9	98.4	
④外部委託費比率	9.9	8.5	1.4	116.5	
⑤利用者当たり管理コスト	505.5	482.0	23.5	104.9	
⑥利用者当たり自治体負担コスト	451.3	450.33	1.0	100.2	

①事業収支：（収入－支出）

事業全体が黒字で施設の管理運営ができていようか確認する。赤字の場合は、管理継続性の面での課題を解決し、黒字化のための方策を検討する。

②利用料金比率：（利用料金収入/収入×100）

収入に占める利用料金の割合。指定管理者の収入源がどこにあり、それが安定したものであるかを確認する。

③人件費比率：（人件費/支出×100）

支出に占める人件費の割合。支出の中で人件費が減らされすぎていないか、又は費用がかかりすぎていないかを確認する。

④外部委託比率：（外部委託費合計/支出×100）

支出に占める外部委託費の割合。外部委託に過度にシフトしていないかを確認する。

⑤利用者当たり管理コスト：（支出/延べ利用者数）

利用者1人当たりにかかる費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

⑥利用者当たり自治体負担コスト：（指定管理料/延べ利用者数）

利用者1人当たりにかかる自治体の費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

4 団体等の経営状況（年度ごと下期に実施し、上期では行いません。）

項目	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	備考
①自己資本比率	44.8	55.5	61.2	54.6	59.7	
②流動比率	196.3	257	321.3	247.8	318.6	
③固定長期適合率	12.6	10.9	10.5	9.5	9.7	
④総資産経常利益率	△8.1	8.8	3.6	7.1	△0.4	
評価	（以上の指標を参考に評価する。）					

※貸借対照表と損益計算書を基に計算する。太枠内に今年度の数値を記載し、左側に過去4年分を記載する。

①自己資本比率

総資産（資産合計）に占める自己資本（純資産合計）の割合を示した指標。どれだけ借金に頼らず経営をしているかを示す。比率が高いほど借金（負債合計）に頼る割合が低く、経営が安定していることを示す。一般的には、70%以上なら理想企業、40%以上なら倒産しにくいとされている。

$$\text{自己資本比率（％）} = \text{自己資本} \div \text{総資産} \times 100 \quad \text{【例】 } 800 \div 2,000 \times 100 = 40.0\%$$

②流動比率

団体の短期的な支払能力を示す指標。1年以内に現金化できる資産を「流動資産」、1年以内に支払を要する負債を「流動負債」といい、「すぐに準備できるお金」と「すぐに返さないといけないお金」のバランスを比較する。流動資産（すぐに準備できるお金）の方が多く、支払能力が高いことを示す。100%以上であれば問題ない。100%未満であれば資金繰りが苦しいとされる。

$$\text{流動比率（％）} = \text{流動資産} \div \text{流動負債} \times 100 \quad \text{【例】 } 1,100 \div 700 \times 100 = 157.1\%$$

③固定長期適合率

固定資産をどの程度、自己資本（純資産合計）と固定負債で賄っているかを示す指標。土地や建物など、この先1年以上換金できない、又は換金しない固定資産を返済義務のない自前の資金である自己資本（純資産合計）と長期で調達したお金（固定負債）でどれだけ賄えるかを見る。100%未満であれば問題ないが、100%以上の場合は固定資産の維持調達について流動負債にも依存していることを示すことから、資金繰りが苦しいと考えられるとされる。

$$\text{固定長期適合率（％）} = \text{固定資産} \div (\text{固定負債} + \text{自己資本}) \times 100 \quad \text{【例】 } 900 \div (500 + 800) \times 100 = 69.2\%$$

④総資本経常利益率

団体の総合的な収益力を示す指標。団体の総資産（資産合計）に対して、どれだけ経常利益を稼ぎ出しているかを示す。比率が高いほど資本を効率的に運用し、収益を上げている。

$$\text{総資本経常利益率} = \text{経常利益} \div \text{総資産} \times 100 \quad \text{【例】 } 200 \div 2,000 \times 100 = 10.0\%$$

※補足資料1～4の各比率については小数点第2位を四捨五入とする。

■貸借対照表（例）

【資産の部】		【負債の部】	
流動資産		流動負債	
現金及び預金	400	買掛金	400
受取手形	500	短期借入金	300
有価証券	200	流動負債合計	700
流動資産合計	1,100	固定負債	
固定資産		社債	300
建物及び構築物	200	退職給付引当金	200
土地	500	固定負債合計	500
投資有価証券	200	負債合計	1,200
固定資産合計	900	【純資産の部】	
		資本金	600
		利益剰余金	200
		純資産合計	800
資産合計	2,000	負債純資産合計	2,000

■損益計算書（例）

売上高	3,000
売上原価	1,200
売上総利益	1,800
販売費及び一般管理費	1,200
広告	700
人件費	500
営業利益	600
営業外収益	200
受取利息	200
その他	0
営業外費用	600
支払利息	200
社債利息	0
経常利益	200
特別利益	100
外国為替	100
特別損失	50
固定資産売却損	50
税引前当期純利益	250
法人税・住民税等	50
当期純利益	200

5 利用者からの苦情の内容とそれに対する市・指定管理者の対応や市から指定管理者への指導状況

年度を通して大きな苦情はなかった。以下、利用者からの要望や意見について。

<施設のリニューアルについて>

トイレの洋式化や授乳室のリニューアルの要望があった。今後、予算やほかの修繕等の緊急度を鑑みながら、施設改修の優先順位を決めていく。

<施設の運営について>

「紙飛行機での遊びについて、安全面に配慮した方がよいのではないか」という意見に対し、指定管理者からボランティア指導者へ、利用者が多いときは遊ぶ場所を限定していただくよう、協力をお願いした。

6 利用者アンケートの結果

<利用された感想>

・概ね好評である。（「楽しかった」97%以上）

<職員の対応>

・概ね好評である。（「満足、やや満足」95%、「普通」5%）

<施設の設備>

・改善の余地あり。（「満足、やや満足」82%）

主な要望：トイレの洋式化、授乳室のリニューアル、図書室の蔵書拡充等